

ナチュラルリーズ スキンコンディショニング エッセンス

表示名称	配合目的	成分説明
水	基材	支給水(ビーワン水)。
グリセリン	保湿成分	ヤシ由来の保湿成分で化粧品でよく使用されます
プロパンジオール	保湿成分	植物デンプンを発酵させて得られる100%植物由来成分。保湿性に優れいますがグリセリンと併用すると相乗効果で保湿効果が高まります。
ペンチレングリコール	保湿成分	さっぱりした感触と保湿を有する多価アルコールです。
フェノキシエタノール	防腐剤	グリコールエーテルの一種。僅かに芳香のある無色～淡黄色の透明、粘稠な液体である。殺菌作用があり、グラム陰性菌に対し特に有効である。化粧品の使用配合量は1.0%まで認められている。パラベンと組み合わせたり、デヒドロ酢酸と組み合わせて防腐成分として使用される。香水の保留剤としても使用される。
カルボマー	増粘剤	カルボマーは天然ガムとは違い、増粘効果があり、皮膚上でサラッとした感触の良さから使用されています。
水酸化K	pH調整	代表的なアルカリ性のpH調整剤です。
BG	保湿成分・ 溶剤	肌に低刺激で保湿の作用があります。
ヒアルロン酸Na	保湿成分	多量の水分を含むことができるので、その性質から強力な保湿成分として使用されます。
ヨーグルト液(牛乳)	保湿成分	乳酸、アミノ酸、ペプチド、乳糖などが含まれる保湿成分です。
グリセリルグルコシド	保湿成分	南アフリカの乾燥地に分布する植物「ミロタムヌス」、通称'復活の木'と呼ばれる植物に存在します。
スフィンゴミエリン	保湿成分	大豆の種子より抽出精製された植物性脂質です。
グルコシルセラミド	保湿成分	セラミドはの前駆体で哺乳動物の全ての細胞に含まれ、主に小麦や米、大豆から抽出させた保湿成分です。
スイゼンジノリ多糖体	保湿成分	スイゼンジノリという藍藻は、九州の極めて水のきれいな淡水域にのみ生息する希少植物です。オランダの植物学者スリンガーが明治5年に、熊本市にある現在の水前寺江津湖公園で発見したのですが、彼はこの水域の清流に敬意を込め、スイゼンジノリの学名の中にsacrum、すなわち「神聖な」というラテン語を入れました。サクランは、ヒアルロン酸の5倍以上という、非常に高い保水力を持っています。
リンゴ果実培養細胞エキス	保湿成分	4か月腐らないリンゴで話題のウトビラー・スパトラウバーの幹細胞を培養して得られたエキスです。
ツボクサエキス	保湿成分	ツボクサの葉及び茎のエキス。ツボクサはセンテラと呼ばれるせり科のハーブの一種。保湿成分です。

表示名称	配合目的	成分説明
オウゴン根エキス	保湿成分	コガネバナの根から抽出したエキス。フラボノイドなどを含んでいます。
イタドリ根エキス	保湿成分	ダテ科植物のイタドリの根茎から抽出されたエキスです。保湿成分です。
チャ葉エキス	保湿成分	ツバキ科植物チャノキ(学名:Camellia sinensis)の葉から抽出して得られるエキスです。
キサンタンガム	保湿成分・ 増粘剤	キサントモナス属の菌類を培養して得られて多糖類です。乳化の安定性を高めたり、感触改善の目的で配合されます。
カンゾウ根エキス	保湿成分	カンゾウ(甘草)またはその同属植物の根および根茎から得たエキスです。
水溶性プロテオグリカン	保湿成分	サケの氷頭と呼ばれる鼻軟骨から抽出して得られる糖タンパク質です。
ローズマリー葉エキス	保湿成分	ローズマリーの葉から抽出して得られるエキスです。
カミツレ花エキス	保湿成分	キク科植物カミツレ(学名:Matricaria recutita = Matricaria Chamomilla)の花から抽出して得られるエキスです。
レシチン	乳化剤	生体成分の一つであるリン脂質で、大豆や卵黄から抽出されます。リポソームの乳化剤として使用されています
オリゴペプチド-24	保湿剤	13個のアミノ酸よりなる合成ペプチドであり、アルギニン、システイン、イソロイシン、グルタミン酸、グリシン、メチオニン及びチロシンからなる保水性分です。
《C》安息香酸Na	防腐剤	食品・飲料にも使用される防腐剤です。
イソマルト	抗ケーキング剤、増量剤	イソマルツロースを還元することで得られる糖アルコールです。抗ケーキング剤、増量剤で使用されます。
アルガニアスピノサカルス培養エキス	保湿成分	モロッコの希少植物アルガンツリーの幹細胞エキスです。

※各成分の働きは、一般的な性質を述べたものであり、製品自体の機能を示すものではありません。